

## 細江カトリック教会だより

3月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

三月では、処女マリアの夫ヨセフの祭日があり、ナザレの聖家族の保護者であり、あらゆるカトリックの家族の保護者であり、また普遍教会の保護者である聖ヨセフに対して崇敬するという深い信心が十世紀から伝わってきました。「ヨセフは主の天使が命じた通り、妻を迎え入れた」(マタイ1:24)。この言葉はすでに神が聖ヨセフに委ねた使命を含んでいます。それは守護者となるという使命です。確かに、聖ヨセフは愛をこめてマリアの世話をし、喜びを持って献身的にイエス・キリストを養い育てました。彼は謙遜と沈黙のうちに、絶えざる同伴と完全な忠実をもってこの使命を果たします。さらに、彼は常に神に目を注ぎ、神様のしるしに心を開き、自分の計画ではなく、神様の計画を進んで従うことによって使命を果たします。そのヨセフは今も同じように、キリストの神秘体である教会、聖なる乙女マリアを理想像、模範と仰ぐ教会を守り、すべてのカトリック家族を保護しています。



ところで、聖書ではあまり聖ヨセフについて語られていませんが、語る際には、わたしたちにはヨセフが休んでいる姿が描かれています(マタイ1:18-25; 2:13-15, 19-25参照)。そこで夢の中で神の恵みを天使が啓示するのです。聖ヨセフを通して、夢を見る必要がある気がします。それでは、この夢とは何でしょうか。それは休息の瞬間

であろうか、あるいは沈黙の時間であろうか、更に未来や希望をもって今の状況を乗り越えるために神様と対話する時間であろうか。神様はこのように時に聖ヨセフに、そしてまた私たちに使命を語りかけています。

そこで聖ヨセフは神の声を聞き、神様が何を求めておられるのかを見つめています。そこから始まって、聖ヨセフは主イエスの養父、乙女マリアの夫となるように選び、主イエスの家庭を成しました。キリスト者として、私たちも聖ヨセフ同様に心の中に、私たちの家

族の中に、私たちの小教区に、私たちの共同体に自分の家庭と教会を築きます。つまり、神の呼びかけを聞き、受け入れるため、主イエスのための家庭を作るために、私たちは主のうちに休息することができなければなりません。すなわち、祈りにおける休息は、私たちにとって、教会にとって、特に

家族にとって重要なのだと思います。

夢を見て終わるのではなく、聖ヨセフが続いて主イエスと聖マリアとともに起き上がることは大事だと聖書が教えてくださいます。現在の世界では、数えきれないほどの家族が自然災害や移民難民の問題、コロナウイルスの感染や病気などの影響で苦しみ続けています。聖ヨセフがあらゆる困難な状況を乗り越えるために善良で強力な家族を必要としていたように、私たちも神の計画における家族の美と真理を守り、現代の人々にとって支えと模範となる

ため、愛と希望に満ちた家族を求めていきたいのです。

聖書が語ってくださった聖ヨセフの姿と行動に学び、夢の中でも神様の言葉をよく聞き、それをよく実行し、また忠実に奉仕することを目指さなければなりません。そして、聖ヨセフと同じように手を広げて神様の民全体を守り、愛・柔和さをもって全人類を受け入れ、良い家族、良き教会を築かなければなりません。それを全うすることができますように、保護者である聖ヨセフの取次によって、祈りを捧げましょう。

「救いの忠実な協力者聖ヨセフ、今もなお、多くの誤りと悪に苦しむ人類をあわれんでください。あなたは、天の父の温順な道具として、イエスの誕生と幼年期のすべてを取り計らい、また、イエスを、人びとのためのいけにえ、祭司、師とするために養育されました。神のみ旨に温順な聖ヨセフ、召命と養成に対する熱意を、わたしたちのために求めてください。わたしたち自身のためには、神の尊い賜物であるこの召命に、絶えず、寛大にこたえる恵みを求めます。」(聖パウロ会、聖ヨセフに向かう祈り)

ディン神父

\*挿絵はフランシスコ・デ・ゴア作  
「聖ヨセフの夢」より



## 地区だより IX

教会に行くといろんな言葉で溢れかえってる。日本語はもちろん英語、ハンガール語、ベトナム語等々とても不思議な感覚になっていく。もちろん日本語で進められる通常のみさの全てを理解している訳では無いだろうけれど、そ

れでも祈りに集まる信心の深さとイエス様への愛をととても感じる。

子どもの時の話だが、母の故郷にある教会へみさを受けに行った際、ご聖体をいただくとうと手を出すと、急に口に直接突っ込まれ、かなりビックリした事を今でもよく覚えている。狭い日本の中でもこれだけ違いがあるのだから、国が変わるともっと色々と違う点があると思うが、祈る思いに違いは無いのだ。

クリスマスやイースターが良い意味でも悪い意味でも、イベントとして世間に認知されだした昨今。キリスト者のボーダーが無いように、世界中の人種、言葉、信仰が一つのペクトルとなって、神様の愛に包まれる事を祈っています。

北部地区 糸永 和樹

## キリスト教一致祈祷集会



\*彦島教会聖堂

1月23日彦島教会で、キリスト教一致祈祷集会に参加しました。

3教会と市内のキリスト教団の方で約50名の参加でした。

今回のテーマ「人々は大変親切にしてくれた」(使徒28・2)

パウロが囚人として、ローマへ連衡される途中船が難破して、マルタ島へたどり着いた。その住民が焚き火を炊いて、食べ物を用意してもてなしてくれた(使徒27・27-28・2)乗組

員全員が神の恵みに感謝する場面に、私たちが困難にあった人たちをもてなすことに思いがあっても実行できることは、神に願い求めて祈ることではとと思いました。

大韓教会の金牧師さんの講話では、「韓国と日本との関係が今少しギクシャクしていますが、お互いの文化・信仰も異なる人々が、相手を受け入れて、共に生きることが大切です。神の救いはすべての人々に向けられています。」と話されました。

共同祈願では彦島教会のアイデアで、『和解・導き・希望・信頼・力・歓待・回心・寛容』と、8つオールを船にささげました。

共に祈り、一致を感じました。その後のお茶会も日ごろ話をしない、教団の方達とお話しができて楽しい時間を過ごせ、参加していい祈りが出来ました。

林妙子

## 防災研修会 2/9 (日)



\* 消火器の使い方を学ぶ。

細江教会では、毎年2回は防災のために聖堂での避難訓練と消防署（火消クジラ館）に出かけて行き、日頃の防災意識を再確認をする機会をつくっています。ここ下関では自然災害等の被害も少なく、日常の生活の中で防災への意識が薄れ他人事のように思っている方々も多いのではないのでしょうか。災害は忘れた頃にやってくるのです。

## 2020年 早春号 3 平和アピール1981 2/22 (土) 長府教会にて

あなたは何を聞いた？  
～教皇フランシスコのメッセージ～



\* アイダル神父(イエズス会司祭)  
アルゼンチンで教皇フランシスコが神学院院長の時に養成を過ごし日本に派遣される  
現在上智大学神学部教授



教皇さまはことばの中によく「いくしみ・平和」がでてきます。・・・と、アイダル神父さまは、ホルヘ・ベルゴリオ神父から教皇になられるまでのことも説明され、また使徒的勧告『福音のよろこび』の中にある平和を創るために4つの原理でお話されました。その時に感じたことを少し。

教皇さまはご自分の体験から人々にメッセージを伝えられて、それがとても私たちには身近に感じられます。そのお姿は平和そのもので、人々への愛の眼差しを感じます。苦しみのイエスさまと温かなイエスさまの似姿にも見えてきます。

『あなたに話がある』と、私たちに呼びかけられた教皇さま。羊を呼び寄せられるように「羊の匂い」がしみているのだろうか・・・今、私たちは何ができるのか・・・例えば最低の食事をし、その余ったお金を貯めて貧しい人に。無関心ではだめ、平和を創る人に、人を救うために。足元の塵でしかない私に、呼びかけてくる。

灰の水曜日を前にして・・・近藤

## 四旬節黙想会 2/23 (日)



184cmの長身と柔らかい声のホアン・アイダル神父様のご指導で少し早めの四旬節の黙想会が行われた。フランシスコ教皇様と同じアルゼンチンご出身なので、随所に教皇様の言葉を引用してのお話であった。

今回のお話のキーワードは①「祈り」②「私の隣人とはだれか」でした。

始めに「祈り」についてのお話でしたが、このテーマを「賛美の祈り」「他者のための祈り」「識別・期待と希望」の3項に分けて具体的に説明されたが、たまたま昨年6月より始まった作道神父様の講座のテーマが「祈り」についてであり、アイダル神父様のテーマと同じであり、私の頭の中はその内容が混在してしまっただけの感想であることをお許しください。

私達の人生において、さまざまな状況・思いの中で祈ることが多いが、どのような時も「感謝と賛美の気持ちで祈ること」のお言葉が印象的でした。また、詩編150の賛美の詩について「祈りとしての詩編は魂と信仰の表現であり、また賛歌・哀歌・感謝の歌である」とのお言葉が心に響きました。

次に「私の隣人とはだれか」についての講話でしたが、これも「許し」「門を開く」「ご聖体と他者」の3項に分けての講話でした。忌み嫌われていた徴税人との食事、放蕩息子の話、イエスの良い羊飼いの話など、よく聞く聖書の言葉を引用しての講話でした。これらの講話の底流にあるものは「隣人愛」＝

「神の無償の愛」のお話であったと思いました。

あつという間の1時間30分の講話でしたが、爽やかな気分で帰宅できたことは幸いでした。最後に当該黙想会の内容とは違うかもしれませんが、先日宇部教会での病院訪問の集会で引用された教皇様のお言葉が印象に残ったので、蛇足ながら記しておきます。

『すべての命を守ることは、人々の命を、愛を込めた祈りのまなざしで見るといふこと。それらの命が、神様からの贈り物だと気づくといふことです』



K&amp;M

## 編集後記

- ・新型コロナウイルスの感染症の防止のため、教会の各所にアルコール消毒液を設置したいのですが商品がないので、手洗いをまめにする。
- ・色々なデマの情報に踊らされる、弱い私たち。心をしっかり持ち惑わされないようにしたい。
- ・東日本大震災の祈りの集いが今年は教会で行われないので、各自お祈りください。

3月11日

## 東日本大震災の被災地の祈り

慈しみ深い神よ、東日本大震災の被害であなたのもとに旅だったすべての人を心に留めてください。まだまだ癒されない日々を過ごしている、残された遺族の方々に、あなたの愛で包んでください。

また、人間の奢りによってもたらされた原発事故を二度とこの世界で起こす事のないように私たちにへりくだる心をお与えください。

私たちが9年たった被災地をこれからも忘れないように、心に刻みながら・・・アーメン。